

南牧村花卉生産組合花情報(平成27年10月)

「なんもくの花」



群馬県の南西部に位置する南牧村では、平均年齢70歳以上の15名が50種類を超える宿根草や花木類などの切り花を栽培し、「なんもくの花」として首都圏へ出荷しています。(写真は生産量のごくわずかなローヤガキです)

『秋の紅葉』

10月の「なんもくの花」は実付きの枝物とともに紅葉の出荷時期です。紅葉の出荷量は多くはありませんが、柏葉あじさいやブルーベリー等が出荷されます。最近ではリシマキアの紅葉も出荷しています。

【左：リシマキア】【右：柏葉あじさい】→



『市場視察研修会』

毎年10月は市場視察を実施しています。今年の視察先は東京大田市場。秋本番を迎え、様々な産地の花を見ることは勉強になり、刺激にもなります。また、市場の方々や仲卸の方などから「なんもくの花」にアドバイスをいただける重要な機会でもあります。

なお、お昼に市場内で安くおいしい定食を食べることや帰りの道中で道の駅に立ち寄ることもこの視察研修会の楽しみです。



【南牧のウメモドキ】



【市場内でPR】



【定温倉庫を見学】